

医療法人愛生館 小林記念病院
勤務医負担軽減計画（2025年度）

【医療法人愛生館 小林記念病院の勤務医負担軽減計画について】

当院では、勤務医の勤務状況を把握し、改善すべき点については、各診療科の責任者へ指導により対応していきます。また医政局の役割分担通知に基づき、医師事務作業補助者による勤務医の負担軽減を図っていきます。今後、勤務医の負担軽減を進めるためには、診療部以外の他部署による協力体制が必要であることから、令和元年11月より医師が行っていた業務等を関係職種間の役割分担を推進することにより、勤務医の負担軽減を引き続き進めていく事を目標とします。

分野	現状	目標（達成期間）	目標達成のために必要な手順	2025年5月 評価
看護業務	看護師が行える処置行為は看護師が実施している	現状維持（1年間）	-	現状維持できている 今後も維持を目指す
	初診患者の診察前に問診を行い、電子カルテ内に記載し、医師の診察をスムーズに行えるようにしている	現状維持（1年間）	-	AI問診導入 現状維持できている 今後も業務改善に取り組む
栄養業務	管理栄養士が食事内容・形態を医師に提案している	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
	管理栄養士が経腸栄養剤の種類や変更の決定を実施している	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
検査業務	看護師が行える検体採取については看護師が行っている	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
地域医療連携業務	退院先は自宅以外の居宅系施設が増加しているため、各施設の理解と連携が必要である	当院と介護・福祉関連機関との連携促進を継続する（1年間）	地域病院との連携会議や医師会会議などに参加する	現状維持できている
入退院支援業務	高齢患者を中心に退院支援リスクが高い患者が増加しているため、入院前から退院後の生活を抽出して早期に退院支援につなげる必要がある	退院支援が必要な患者については退院支援計画書を確実に発行できることを目指す（1年間）	リライフカンファレンスを開催し、チームにて退院支援計画を協議・計画を立て、退院支援計画書を発行する	現状維持できている
患者相談業務	傷病に伴う生活上の課題に対し専門職員による相談が必要である	患者及び家族への相談業務を継続する（1年間）	相談窓口の設置	現状維持できている
医師事務作業補助業務	医師事務作業補助者の配置を行っている	医師事務作業補助者の研修受講者を増やす（1年間）	2025年度までに医師事務作業補助者研修を受講する	2025年下期に1名 医師事務作業補助者研修受講予定
	各種文書（診断書、診療情報提供書、入院書類、介護保険意見書、サマリー等）の作成支援を行っている	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
	外来診療時の支援を行っている	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
診療情報管理業務	癌登録を行っている	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
医事業務	特定疾患療養管理料、認知症サポート指導料、生活習慣病管理料の算定対象者を事前にお知らせしている	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
	訪問看護指示書の傷病名コードを記載している	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
薬剤業務	医師の指示による代行入力など薬物治療に関わる範囲で積極的な支援を行う	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
	入院患者の持参薬確認実施をしている	現状維持（1年間）	入院初日に評価・報告を行い、持参薬鑑別記録を行う	現状維持できている
	注射薬の溶解液が添付文書の規定と異なる場合は薬剤師にて支援を行っている	添付文書の規定と異なる溶解・調製方法を0件にする（1年間）	事前プロトコルを交わし、水分制限など特段な理由がなければ薬剤科にて修正を行う 注射処方を調剤する際は処方監査→調剤→監査の手順とし、処方監査者が適性な調製方法に修正代行を行う	現状維持できている
当直業務	当直翌日の業務内容に対する配慮の実施	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
	連続当直を行わない勤務体制の実施	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
その他	オーダーリングシステム、各部門システムの整備・導入	現状維持（1年間）	-	現状維持できている
	医療用画像のフィルムレス化の実施（医療用画像の電子化（デジタル化））	現状維持（1年間）	-	現状維持できている

2025年5月1日

医療法人 愛生館
小林記念病院 病院長